



## 医療の現場アラカルト - Vol.9

## スペイン語担当 Lさん

私は日本に来て結婚し、子育てをしながら生活する中で、これまでに何度かぎっくり腰を経験したことがあります。発症するたびに、私はかかりつけの整形外科を受診し、治療を受けながら、先生から予防に関するアドバイスをいただきます。

「腰にとってよくないのは、床に座って生活することです。これ以上悪化させないためにも、なるべく椅子に座る生活を心がけてください。」そう言われたとき、ふと私の母国であるペルーのことを思い出しました。実は、ペルーには「ぎっくり腰」というような特有の名称はありません。同じような症状があったとしても、「Me duele la cintura (メ・ドゥエレ・ラ・シントウラ／腰が痛い)」という表現しか使われません。



先ほどの話に戻りますが、ペルーは欧米文化の影響を強く受けており、床に直接座るとい生活習慣がありません。ですから、日本のように「ぎっくり腰」と呼ばれるような症状を経験する人は、あまり多くないように思います。

このことから、私は「文化や生活習慣の違いによって、同じ人間であっても、発症しやすい症状が異なるのではないか」と感じるようになりました。たとえば、床に座ることが当たり前の生活と、椅子に座ることが当たり前の生活を長年続けることで、年齢を重ねるにつれて腰が曲がりやすくなるなど、身体的な違いが現れる可能性があるのではないのでしょうか。

こうした小さな日常生活の違いを通して、私たちは他国の文化や習慣を知り、自分の暮らしをより良くするためのヒントを得ることができるかもしれませんね。

## 「窓側のブックコーナー」



Medi-Wayオフィスの一角に書籍のコーナーがあります。医療通訳の理論に関するもの、各言語の医療用語に関するものはもちろんですが、小説もあります。Medi-Wayの医療通訳士は、月一回の全体での勉強会以外にもそれぞれが自己研鑽に努めているわけですが、肩ひじ張らずに読むことができる小説やエッセイも意外と勉強になります。現役医師による小説も数多くあり、臨場感あふれる筆致に引き込まれます。

私たちは、「どの診療科の通訳を対応することになるか」ということを、基本的には事前に情報がないうまま通訳を開始します。初めて耳にする言葉が出てきて慌てることもありますが、そんなとき、「あ、あの小説に出ていた言葉かもしれない」と記憶の糸をたぐることができ、ほんの少し気持ちを落ち着かせることができます。

「勉強」というと堅苦しく感じてしまいがちですが、日常生活のなかからも医療に関するさまざまな言葉、知識を吸収していきたいです。

## 今月のピックアップ



## 高品質な 日本の桃づくりと通訳者気質

桃の美味しい季節です。今年もMOMOROW Westで東和AGワークスの桃が販売されています。

日本に生まれ育った私たちは気づきにくいですが、実は海外を中心に日本の桃は大人気です。糖度が高く甘い日本の桃は、間引きや手作業による袋掛けなど、手間をかけて作られた結晶です。こうしたこだわりは、日本に限ったことではありません。Medi-Wayの通訳士の母国でも、果物の品種改良が行われているそうです。通常は白みがかかった黄色のドリアンの果肉ですが、ベトナムで品種改良されたものは濃い黄色をしていて甘みが凝縮されています。またライチは、通常よりも種のサイズを小さくすることで、改良前に比べて食べやすくなっています。中国のライチの種もとても小さく作られているとのこと。

私たちMedi-Wayでも、高品質へのこだわり「丁寧な姿勢、誠実さ、そして細部への気配り」を、通訳にもしっかりと反映させていきたいと考えています。関わるすべての人に、安心して頼っていただけて、桃づくりのようにチーム全員で日々努力を重ねてまいります。

